



K-2-1 外国人研究者の支援ってみんなどうしてるの? <プレアワード支援>

英語の支援リソース不足に対応したプレアワード支援の仕組み 学外に開かれた KAKENHI セミナー とその展開

京都大学 高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi) リサーチ アクセラレーション ユニット

信田 誠、小川 正



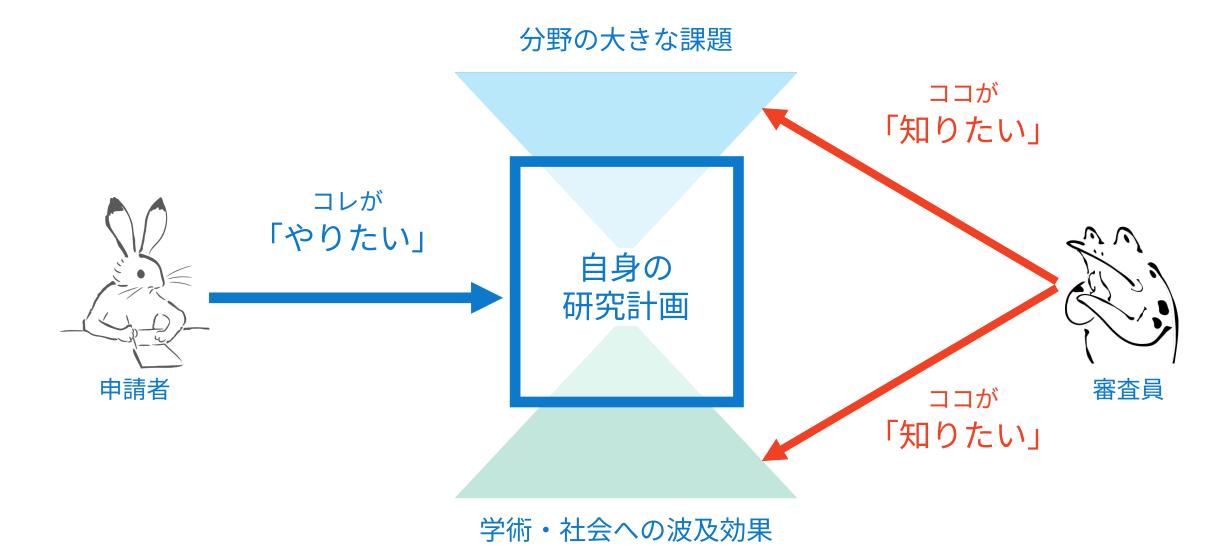


二 若手(特に外国人)研究者の課題:「自分」視点の申請書が多い



申請者がやりたい研究にフォーカスしてしまうと 審査員が知りたい研究の意義や重要性が伝わらない

□ 効果的な申請書:「審査員」視点を含む研究ストーリーが鍵



→ 外国人研究者も、効果的な研究ストーリーで外部資金を獲得可能



Cantas Alev 教授(ASHBi PI)の例

研究面: 2019.07 ASHBi着任後、*Nature, Science* などで研究成果を発表

外部資金: なかなか獲得できず・・・ (締切間際の作成で、あまり支援もできず)

不採択の申請書での問題は **申請書の記載言語** ではなく、 **審査ポイントに対応した研究ストーリーではなかった**こと

など

2023.10の教授就任以降の支援では、研究計画の構想段階から

研究ストーリーの構築や申請書の作成をハンズオンで支援 したことで、以下の**大型外部資金の獲得**に成功!

- 科研費 基盤研究A
- ・AMED再生・細胞医療・遺伝子治療(基礎応用研究課題)、ASPIRE(日・英)
- JST 創発、CREST

L しかし、現状は、多くの外国人研究者が独りで悪戦苦闘している

外国人研究者も、研究には外部資金が必要







科研費には英語ページが存在、だが・・・

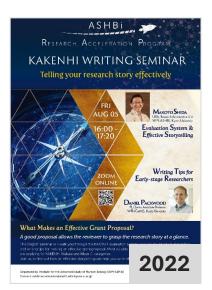




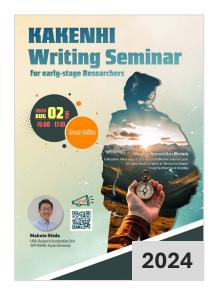
📘 課題解決へ!学外に開かれた英語のKAKENHIセミナーを開催

国内外の研究者が参加可能な、**英語のKAKENHI Writing Seminar**











大学院生向けに 学振DC1/DC2の 英語セミナーも提供



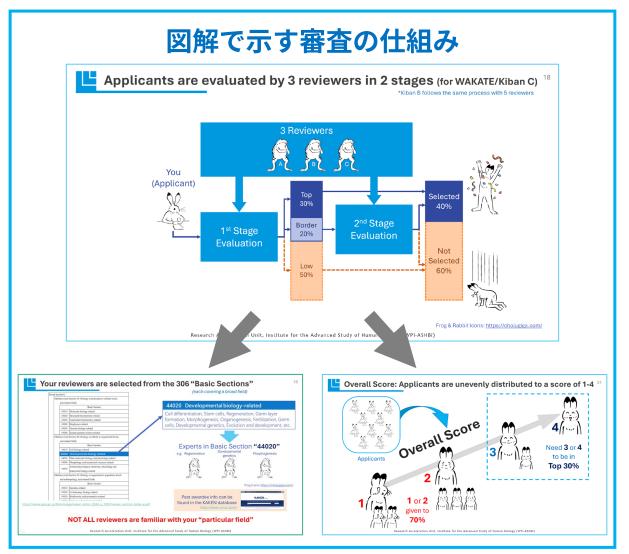


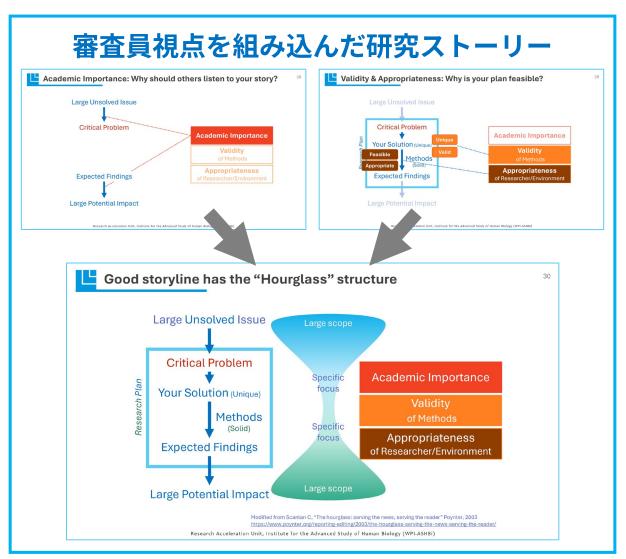




■ 支援が得にくい環境でも、効果的な申請書作成のポイントが分かる

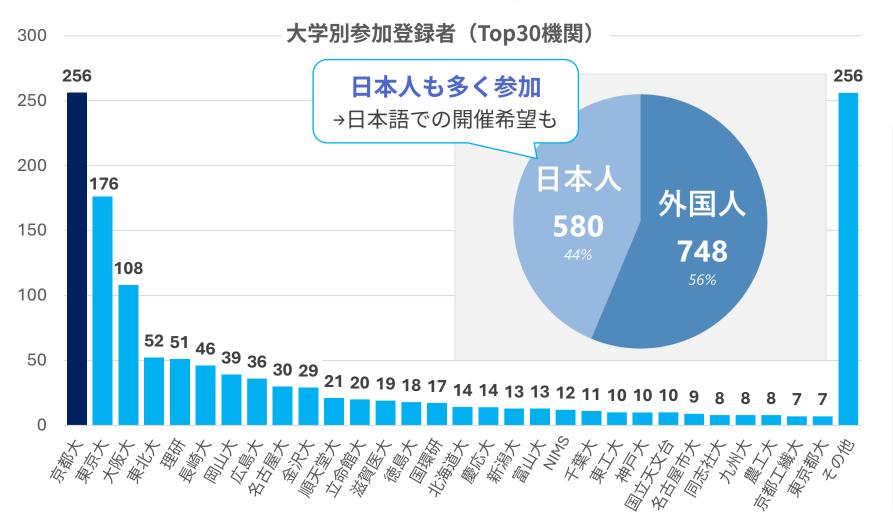
図解や平易な表現のため、英語が母国語でなくても容易に理解可能





各大学の周知協力により、国内外から1,300名以上が参加

2025年 国内外130機関 から 1,300名以上 が参加登録







■ ASHBi リサーチ アクセラレーション ユニットによる研究支援

様々なバックグラウンドを持った専門家が個々の強みを生かす形で、 研究フロー全体をシームレスに支援する体制を構築



ASHBi Research Acceleration Unit



Unit Head Professor T. Ogawa



Lab Startup/Grant Writing URA M. Shida



Scientific Writing Associate Professor S. Goulas



Scientific Visualization/PR Research Coordinator H. Inoue



Science Writing/PR Assistant Professor H. Sun

Research Cycle

Research Plan & Funding

Experiment & Analysis

Publication

Presentation

PR & Outreach

公開









